

高齢者に学びの場を提供するNPO法人「大阪府高齢者大学校」に通う尾崎智可子さん(82)（大阪府茨木市）は、古代史などの講座で学習した人物や史実にゆかりのある場所を訪ねるサークルを運営している。現地に足を運ぶことで体を動かすとともに、学びを重ねて頭を働かせ、健康維持や老化防止につなげている。

（社会部 松本慎平）

受講生でサークル

7月31日午前9時、尾崎さんはサークルメンバーの女性9人（71〜76歳）と大阪市のJR長天王寺駅から電車で乗った。目的地は三重県鈴鹿市の加佐登神社だ。

同神社の祭神は、古事記などで古代日本を統一し導いた英雄として描かれている日本武尊。戦で傷つき、同神社の近くで生涯を終えたといわれる。周辺には墓と言い伝えられる古墳もある。尾崎さんが高齢者大学校で受講中の講座で習った。

一行は電車とバスを乗り継いで午後2時頃、神社前に。酷暑の中、汗をぬぐいながら約100段の石段を上って境内へたどり着き、日本武尊の生涯やこの地域との関わりについて記した説明板に熱心に見入った。古墳にも足を運んだ。

「神話上の人物かもしれないけれど、天皇の息子でありながら後を継ぐことなく、志半ばで命を落としたという悲運の物語に心を打たれた」と尾崎さん。

別の2か所も巡り、夕方に帰途へ。電車内ではこの日の感想を語る会話に花が咲いた。

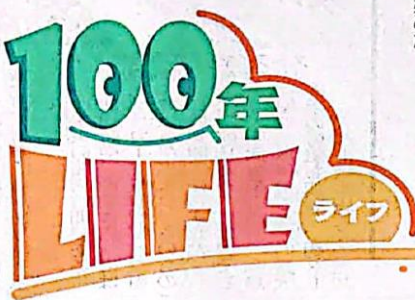
計50〜60か所

尾崎さんは28歳で結婚し、3人の子を育てながら、40歳過ぎからは化粧品販売会社を運営。「子育てと仕事に追われる日々が長く続いた」と振り返る。

72歳となった2013年に転機が訪れた。「そろそろ他の人に会社を任せてもいいかな」と気持ちに余裕が生まれ、た頃に知人から誘われ、高齢者大学校に通い始めた。

いくつかの講座を受けるうち、古代史の魅力にはまった。「学校の古代史の授業はさっと通り過ぎるだけだった。自分が知らない、新しいことがわりとわかっていく。この国のルーツを

現地に足運び 歴史再学習



もっと探りたいと思った」

17年、講座で登場した土地に赴くサークル「ちょこっと古代探検隊」を設立した。「座って学ぶだけでなく、自分の目で確かめたい」とおもしるようになるはず」と考えたから

所属するメンバーは講座で知り合った17人。これまでに関西を中心に福井、新潟など50〜60か所に出かけた。現地を訪れても、見るべきものがなくて期待はずれの時もある。それも含めて「足を運ぶんだからそこ分かん」と前向きだ。「自分の足で歩き、そこで勉強することが何よりのアンチエイジング。『また学ぼう』というエネルギーがわいてくる」と笑う。

健康維持にも

メンバーも、旅への参加を通じて活力を得ている。

三重県への旅を共にした大阪府枚方市の楠田道子さん(73)は、60歳で勤務先を退職した後は家に閉じこもりがちに。「もっと外に出よう」と知人から誘われ、2〜3年後に通い始めた高齢者大学校の古代史の講座で尾崎さんと出会い、サークルに入った。

「目的を決めていろんな場所へ行くことで、世界が広がった」と自身の変化を語る。「次も参加しよう」と思うことが、健康を維持する動機にもなっているという。

尾崎さんは、2年前に会社

尾崎さんお薦めの古代史スポット



馬高縄文館
「縄文時代に素晴らしいデザイン性の火焔(かえん)土器があることに感動した」



登呂遺跡
「日本の考古学の原点。弥生時代の生活を模擬体験できるのが楽しい」

福井県年輪(ねんこう)博物館
「数万年前の地層が明確に見られるのが魅力」

福井県若狭町

今城塚古墳と古代歴史館
「副葬品の多さなどから、埋葬者の権威と実力を感した」

大阪府高槻市

加佐登神社



日本武尊について仲間と語り合う尾崎さん(右)

59科目 2300人受講 大阪府高齢者大学校

大阪府高齢者大学校の由来は、1979年に開校した「大阪府老人大学」で、2009年からはNPO法人として運営されている。大阪市中央区の市教育会館などで講座を開いている。

今年度は11分野で59科目を開講し、約2300人が受講している。このうち「歴史」は8科目、史跡や城などを実際に訪れる「関西再発見」は5科目ある。いずれも定員を上回る申し込みがあり、特に関西再発見は、1次募集の時点で定員に到達する人気ぶりだという。尾崎さんが受講している古事記と万葉集の科目は「文化・文芸」の中に含まれている。

の経営から退き、学習意欲は増すばかりだ。現在は古事記と万葉集を学ぶ講座に通っている。出かけた場所は他に

もたくさんある。「いつまでも好奇心旺盛で、行きたい場所に行けるよう健康でいたい」と意気込む。

幸せランチ & スイーツ

「柳園」の豚汁セット

京都市上京区烏丸通上立売上る
柳園子町334
☎075・432・1896

考古学・文化財の専門職員として福岡県教育委員会や文化庁などに勤務した後、2018年に母校の同志社大に教員として戻った。

若者向けの店が多い京都・今出川キャンパス周辺。学生時代を過ごした1980年代から残る店もあり、地元で愛されてきた味を求め、今も足を運ぶ。この店の看板メニューの一つが「豚汁セット」(税込み820円)。タマネギや青ネギ、白菜、キャベツなどの野菜がふんだんに入った豚汁は「ボリュームたっぷりで食べ応えがある」のでよく頼む。コクがありながら優しい味なのがうれしい。自家製のごどごしの良い中華麺は、種類が豊富。冷やし中華やカレーラーメンも人気メニューだ。

京都府木津川市の古墳で学生と一緒に発掘調査に臨む。「現場で考古学に必要な知識や経験を身につけてほしい」。自身の学生時代を重ねつつ、後進育成に励む。

◀読売新聞オンラインでも読めます
火、木曜日掲載

同志社大教授
水ノ江和同さん